

実施報告書

出雲市立朝陽小学校 心に残る文化財子ども塾

1. 活動の概要

6月9日（水）、出雲市立朝陽小学校6年生40人を対象に「心に残る文化財子ども塾」を開催しました。今回は「1300年前の朝陽小地区の歴史」と「大仏パネルづくり」を2クラス入替制で実施しました。

「1300年前の朝陽小地区の歴史」では、学校の周辺の高墳時代や奈良時代の様子について、今ものこる石室や発掘された遺跡、『出雲国風土記』に書かれていることから学習しました。

また、奈良時代に実際に使われた須恵器について、実物を観察したり、触ってみたりしながら説明を受けました。平安時代には校区にある遺跡でたくさんの須恵器が作られていたことを知り、自分たちの住んでいる近くにあったのか、と驚いた様子でした。

「大仏パネルづくり」では1辺1m四方のシートが150枚以上もあって大変でしたが、みんなで協力し合って立派な大仏さまが完成しました。そして大仏が作られることになった背景について学びました。このような、普段の学校の授業ではなかなかできない体験活動を通して、改めて郷土の歴史や文化、文化財に興味を持ってもらえると嬉しいです。

2. 活動の様子

①本物の須恵器に触ってみよう！



「熱心に観察しています」

②大仏パネルをみんなでつくります



「1枚1枚丁寧に並べていきます」

③完成！



「大仏の大きさが実感できました」

④大仏が作られた背景も学びました



「疫病の流行はいまや他人事ではありません」

3. 子ども塾を終えて

①子どもたちから…

- ・ 出雲国風土記が最初から最後まで全部あってすごいと思って、身近に感じられてうれしかったです。
- ・ 昔の人がつかっていた食器が本当に発見されていてすごいと思いました。
- ・ 大仏パネルをみんなで協力してつくることができたし、大仏のことをたくさん知ることができたのでよかったです。
- ・ むかしの人は、長い時間かけてすごい大きな物を作っていてすごいなと思いました。

②担任の先生から…

- ・ 地元の遺跡などを取り上げてもらって、昔のことを身近なことととらえることができた。
- ・ 須恵器の実物に触れることができ、子どもたちの興味が深まった。
- ・ 大仏について、具体的に大きさがわかってよかった。

出雲市立朝陽小学校6年生のみなさん、先生方、ありがとうございました！！